

【月刊】

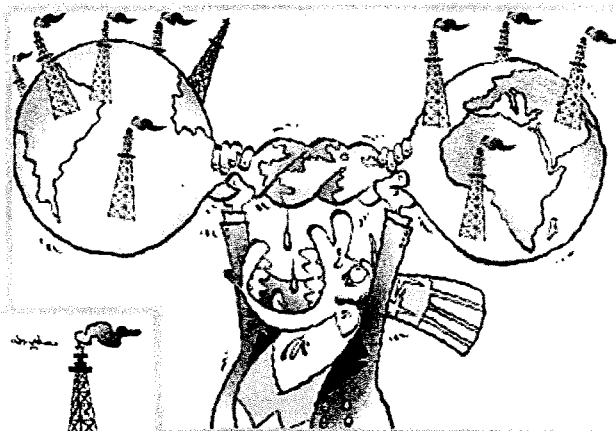
キャッチピース

117

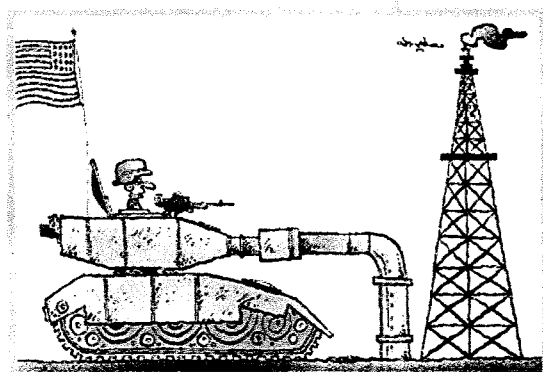
通巻194号
04/06/20

لا الحرب، لا الاحتلال!

No war, no occupation!



Mustafa Rahmeh, Alittihad .2004.06.17



Mustafa Rahmeh, Alittihad .2004.06.17

地下に埋った 「戦争の大義」

とは…

遠い戦争 近い戦争

毎日、米軍相模原補給廠の前を通る。静かだ。あたり前の顔をして、日常にとけこんでいる。近所のおじさんは、三〇年前の戦車闘争を知っていた。補給廠の中で働いていて、戦車にこびりついた肉片を洗い流したという。思い出話として、私に話してくれた。

米軍基地は、日米友好の結果ではなく、今遂行されつつある軍事行動のためにある。それは、日本列島とはるかイラクの戦場をつなげる太いパイプだ。

通勤途上の静かな風景から、遠くの戦争がすけて見える。



目次

- オキナワから トウキョウから … 太田 武二
- 【イラク派兵違憲訴訟傍聴記】
イラク派兵を許すことはできない … 山中 悦子
【イラク派兵違憲訴訟傍聴記】
- オキナワの基地の一ヶ月 … 皆川 みずゑ
- From Daily Updating POLITICAL CARTOONS
- おまえの体 花となり … チェ・ビヨンス
- 会計報告 (2004.6.05～7.17)

編集発行人 ● 脱軍備ネットワーク・キャッチピース

●維持会員 (月額) 個人 1口 1000円 団体 1口 2000円 ●参加会員 (月額) 個人 1口 500円 団体 1口 1000円
●通信会員 (年額) 1口 3000円 (会費には本紙購読料が含まれます)

オキナワから

太田 武二

その

トウキョウから

原稿依頼に考え込む

私が、キャッチピースの編集部からお手紙を頂き、原稿の依頼を受けたのは6月下旬でした。一瞬深く考え込み、なかなか浮かび上がってこれませんでした。というのは、私自身、キャッチピースが連載していた伊波洋一さんの沖縄報告の愛読者だったからです。彼の報告は、沖縄現地の実情が丁寧に整理、分析されていて、運動の方向を見定める上で参考になり、まさに一級の報告文でした。そして、昨年春の宜野湾市長選挙で、「普天間基地の移設条件無しで、五年以内返還」を公約にして、見事当選勝利を勝ち取っただけに、彼の後釜役に対していわば尻込み状態になったのです。

それでもやらねばという想いにかられたのは、編集担当者の以下の言葉でした。

「なかなか沖縄の状況が全国に伝わりません」「私も、沖縄の各紙から沖縄関連のこの一、二ヶ月の出来事をまとめ、記事にします。太田さんには、沖縄の方々の声、思い、具体的な運動状況ということ、お書きいただけたら幸いです。」最初

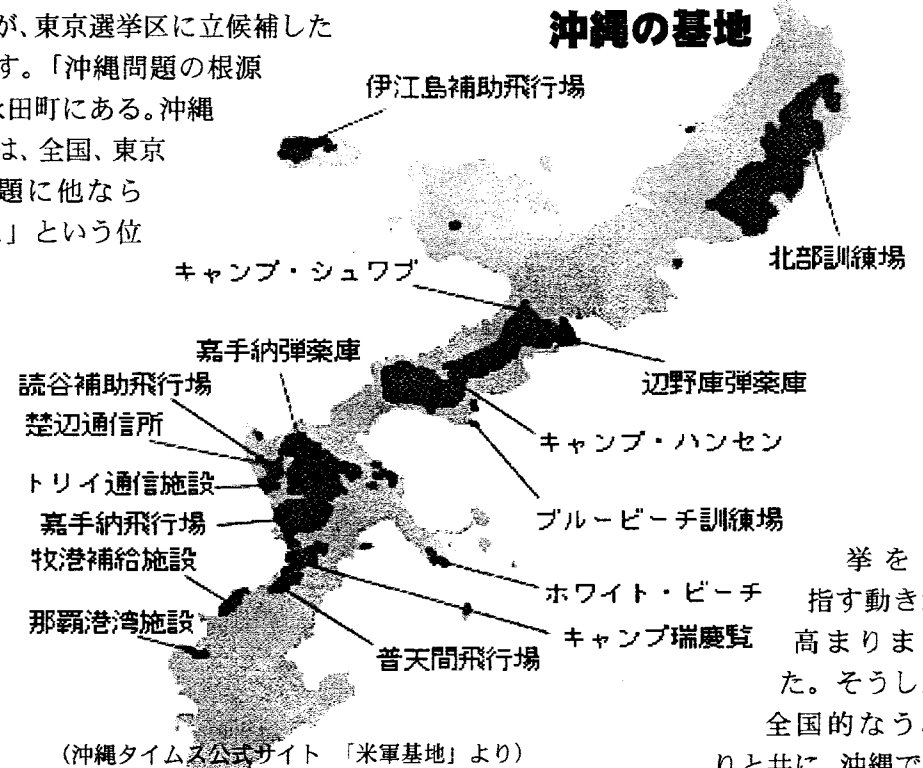
から楽屋話みたいで申し訳ありません。私にとって、伊波さんの沖縄報告を継いで書くということは、それほどプレッシャーが大きかったということです。それにしても、沖縄の状況が全国に伝わらないという思いは、昔からとってしまえばそうなのですが、何とかならないのでしょうか。少なくともキャッチピースの読者の皆さんにだけは分かってほしい、知ってもらうことから広がってほしい、という希望を持って書くことを決意した次第です。しかも、全国的にはあまり強調されなかったようですが、今回の選挙で唯一の野党統一候補として闘った糸数慶子さんと片や民主党から比例区候補として出馬した喜納昌吉さんたちの闘いと勝利の貴重な意味を読者の皆さんに報告したいと考えたのです。

沖縄参院選の闘いから

まず何から報告するかといえば、私の心の中に沢山の思いと状況が押し寄せてきます。この7月2日から、二泊三日の短い帰沖体験だけでも報告したいことが溢れてきます。というのは、沖縄では歴史的

な意義を持つ闘いが、今もこの瞬間、瞬間に現在進行形で勝利展開しているからです。その熱い状況からこちらに戻り、未だにそのマグマが冷め切っていない中で、二つの参議院選挙を順番に報告します。私が本気で選挙に取り組むようになったのは、恥づかしながら3年前の参議院選挙でした。その時、沖縄社会大衆党の書記長が、東京選挙区に立候補したのです。「沖縄問題の根源は、永田町にある。沖縄問題は、全国、東京の問題に他ならない。」という位

今回の参議院選挙の政治的意義は、今更強調する必要はないでしょうが、なんと言っても小泉政権に対する不信任を突きつけ、イラク派兵、憲法改悪などの悪政に審判を下すものでしょう。それだけに、かなり前の段階から政党、市民運動などが大きく連合戦線を組んで、統一選



置づけで闘い、三万票弱という大敗を喫しました。しかし、その挑戦があればこそ、今年の参議院選挙での沖縄旋風が起こったと私は確信しています。そして、私の今回の選挙闘争への入れ込みも生まれたのです。つまり敗北を恐れなければ、より以上の成果を私たちは闘いの財産として獲得できるということです。

挙を目指す動きが高まりました。そうした全国的なうねりと共に、沖縄では

現職の島袋宗康さんの議席を守るために、同じ沖縄社会大衆党の副委員長の糸数慶子さんを統一候補へという動きがありました。しかし、全国の統一への動きが難航したように、沖縄でもすんなりと決まるというわけには行きませんでした。

3月段階では、安保条約を廃棄するという公約と当選後の所属会派問題で共産党との折り合いがつかず、野党分裂へと

亀裂が深まったかに見えました。そうした状況に対して、猛烈に働きかけを強めたのが、平和市民連絡会に結集する人々でした。少し自慢すれば、私たちも共産党系ではあっても沖縄問題に取り組んでいる市民運動の人たちと共に共産党本部や沖縄県委員会にメールやファックスで働きかけました。

三年前の参議院選挙では、全野党候補の票が、自公候補者より勝っていたにもかかわらず、敗北したのです。自公勢力に対して負けることが分かっていたながら、分裂するという事は敵に塩どころか、城を明け渡す最悪の選択だという内容の説得です。その結果、4月末のぎりぎりになって、共産党と沖縄社会大衆党が合意に達し、かつての革新統一候補の伝統を生かす形で、野党統一候補に糸数慶子さんが決まったのです。そして、糸数さんの優勢の下で選挙戦が闘われている最中に、私は母の四九日法要と納骨のため沖縄へ帰ったのです。

糸数候補の選挙戦

一般的にタクシーの運転手さんは、その土地のことに關してはプロの客観的な評論家然としている人が多いです。特に沖縄では、復帰運動、反米平和運動に鍛えられた運転手が多いこともあり、沖縄民衆の意識状況については正確な判断を持っていて、しかも話し上手が多いのです。だから、たまにしか沖縄に帰らない私は、移動には出来るだけタクシーに乗り、運転手さんと話をします。

そこで今回はどうだったかという、やはり優勢を根拠付ける話がありました。

三回乗ったタクシーの運転手さんたち全員が糸数さんを推していたのです。その内の一人は、更に話を広げて普段自分の周りで自民党に入れてきた人でも、今回は糸数さんに入れると言っているという話でした。実際、選挙事務所で、初めての電話掛けボランティアを二時間ばかりしたのですが、相手方の反応がいいのには驚きでした。一方では、そうした優勢という情勢の陰で、実は心配なことがあり、その不安は払拭されないまま沖縄から帰ってきたのです。

それは、相手方にも言えることなのでしょうが、6月の前段にあった県議会議員選挙で、支援組織、運動体が相当体力を消耗して動けていなかったことです。私が帰沖する直前情報では、伊波洋一さん地元の宜野湾市民会館での集会在、千人の会場にわずか二百人しか参加していなかったとか、南部地域の選挙事務所に誰も居ないで選挙ピラが山積みになっていた、「このままでは糸数さんが負ける」というメールがはいったりしていました。

私が帰京するちょうどその日に、問題の南部地域での決起集会があると聞いて、最終便に乗る前に、会場の南風原中央公民館に行きました。会場には約二百人の人々が参加し、ある意味では非常に盛り上がっていました。各政党、連合、応援団の主だった組織の代表が演壇に登り、オープニングコンサートで若者のデュオグループが歌とアピールをして会が始まりました。そして、会の途中で名護に行くということで、糸数慶子さんが演壇で挨拶をしました。彼女の話は、過去二〇

年間バスガイドとして沖縄中を案内し、平和のために働いたこと、三期県議を勤めた経験から小泉、自公政権を厳しく批判するものでした。真紅のブレザーにスラックス姿の糸数さんは、既に2ヶ月近く街頭や屋内の集会をこなしてきたはずなのに、疲れを感じさせないどころか、勝利の自信と確信に輝いて見えました。

沖縄の古いことわざに「女(いなぐ)や戦争(いくさ)ぬ先走(さちばい)」という言葉があります。一旦緩急あれば女性が真っ先に走っていくという意味で、沖縄では、いざとなったら女性の方が強いという意味です。まさに彼女の演説は、その美しさといふ演説の豊かといふ絶品でした。

帰りの飛行機の中で、私なりに納得しました。支援態勢は遅れていても、彼女が多くの人々と語り合い、触れ合いすることで勝利の票を積み重ねてきたのだということでした。実際、その南部の集会もそうでしたが、終盤になって支援の運動も一気に上りつめ、盛り上がってきたようです。

投票日の二日前に、長いこと照屋寛徳さんの選挙参謀役をしてきた友人に電話で尋ねたところ、彼の判断では二万票以上の差で勝つということでした。そして、実際蓋を開けてみれば、「糸数慶子316,148票に対して、翁長政俊220,803票」で何と「95,345票」の大差でした。

糸数さん当選の意味

この大差の意味は、限りなく重いものがあるんです。いわば、軍事基地を巡る第三の住民投票に匹敵する判断を沖縄の

御万人(うまんちゅー=民衆)が表明したということです。第一回目は、1996年9月の大田知事による県民投票。第二は、翌年の12月の名護市市民投票です。1995年の米兵による少女レイプ事件に沖縄全体が怒りに燃えた中で、それらの結果は、住民側の勝利でした。にもかかわらず、日本政府は、沖縄県、名護市、経済界、関連企業に働く住民に圧力をかけ続け、海上基地建設の既成事実を押し付けてきました。この八年間というもの、名護、辺野古の住民にとっては、一日として安穏としていられたことはなかったのです。そして、今回の選挙を前にして、小泉内閣による自衛隊の海外派兵、多国籍軍への参加だけでなく、在沖縄米海兵隊がその主力部隊として直接イラクに参戦し、民衆を虐殺しているという許しがたい状況に加えて、その海兵隊のための海上基地建設を事実上着手することになるボーリング調査の強行があり、4月19日以来連日辺野古では座り込みによって阻止し続けているという熱く燃えている中での選挙だったということです。

この選挙は、単に糸数さんを勝利させるということから遥かに大きな政治的重みを課せられていたのです。つまり、沖縄の抱え込まれている諸問題の是非を問い、小泉、自公政権に対する不信任を決定する投票でした。また、全国で唯一の野党統一候補として自公候補と一騎打ちだったわけで、この勝敗の帰趨は、今後の沖縄だけでなく、全国的に影響を及ぼす政治的意味合いを持っていました。

そうした選挙においての大差だったのです。文字通り、沖縄の民衆と私たちは

イラク派兵を許すことはできない

—私は生きている限り、二度も侵略戦争を経験したくない—

イラク新政府への主権委譲が完了した。しかし直前の混乱はすさまじいものだった。多くの犠牲者を見るにつけ、攻撃を強行した米英軍に対する憤り、同時にその愚行を支持し、自衛隊派兵まで実施した日本政府に対する怒りを抑えられない国民は多かったはずだ。これで自衛隊は晴れて？多国籍軍の一員となった。小泉さんの思う通りになった。けれどすべての国民が黙っているわけではない。自衛隊派兵の違憲性で政府を訴える訴訟運動が全国的に広がっている。イラク派兵違憲訴訟の会・東京に原告として加わり、6月14日東京地裁の法廷に立った北沢洋子さん(国際問題評論家・前日本平和学会会長)の口頭弁論を傍聴した。日頃からアクティブに行動する北沢さんの意見陳述を聞こうと平日にも関わらず多くの傍聴者が来所。傍聴席45席はすべて埋まり外にも溢れた。

山中 悦子(キャッチピース・編集部)

今回の裁判は原告の北沢洋子さんが「自衛隊のイラク派兵が憲法違反であること、百歩譲ってイラク特措法違反であること、米国のイラク戦争が国際法違反であること」を理由に国を訴えた裁判である。日本には憲法裁判所がないため、裁判は個人の賠償を請求するという形で、民事裁判で行なわれた。裁判は原告が被告のどちらかの住所があるところで行なわれるということで東京地裁への提訴となった。被告が国及び国の諸機関である場合は、原告の住所はどこであろうと東京地裁への提訴が可能ということである。

違憲訴訟は、100人を超す弁護団が共同の態勢を敷いた元郵政相の箕輪登さんが原告となった北海道のもの、全国の1262人が原告団となった名古屋のものなどがあるが、東京では昨年12月から日本友和会(有志)、良心的軍事費拒否の会(有志)、テロ特措法・海外派兵は違憲市民平和訴訟の会(有志)、平和のための裁判を考える会で「イラク派兵違憲訴訟準備会」を組織し、毎日1人ずつ100人以上が次から次へとリレー式で訴えを起こすという裁判が準備された。そして、一人原告・毎日裁判が実現した。

6月14日、この日は北沢さんの615号法廷をはじめ、708号法廷、611号法廷と東京地裁だけで三つの法廷で10の違憲裁判が行なわれた。同じ裁判長が異なる原告の異なる裁判としてほぼ同じ内容の裁判を一日に二つ、三つと担当した。7月一ヶ月間だけでも33法廷が予定されている。国に市民のこのパワーがどこまで伝わるか。

●
当日、私が東京地裁に入ると正面に北沢さんが立っていた。北沢さんはすでに3月29日にA4で49ページもの訴状を提出済みであったが、二ヶ月半を経てやっと迎えた第1回口頭弁論の日に、訴状を補完する文書(A4で5ページ)を用意、来所する傍聴者に自ら配布していたのだ。「北沢さん、記念写真！」キャッチピースの編集委員魂を発揮して私がある場でシャッターを押した途端係員が飛んできた。デジカメの画像は即座に削除させられた。撮影禁止は法廷内ではなかったのだ。

開廷を待つ傍聴席。連れの友人K子さんはTシャツのメッセージを裁判官に見咎められないかと上着持参で着席した。けれど彼女の心配をよそに、小さな文字の英文だったからか注意されなかった。彼女がTシャツで訴えたのは“Everyone's worried about stopping terrorism. Well, there's a really easy way: Stop participating in it.”(チョムスキー 9.11Power and Terror)だった。

そろそろ開廷という時、北沢さんはおもむろに原告席を立てて被告席に座る代

理人4人に次々と名刺を配った。彼女は「北沢洋子です」と言って名刺を手渡ししながら「お名刺いただけませんか」と頼んだのだという。けれど4人は「持っていません」と答えたそうだ。

裁判が始まった時、北沢さんは裁判長に向かって最初に「被告はこの省庁の方々が明らかにしてほしい」と申し出た。裁判官は「被告側代理人に原告がそう言っていると伝えます」と言った。被告日本政府は誰(何省)の代理人を被告席に送ってきたのか知りたいと思うのは原告としては当然。そもそも自ら名乗らなくていいのか。しかし結局それは代理人が「明らかにする必要はない」と言って終った。このことを問題にしたのは今回が初めてだったようだが、こだわったのはいかにも北沢さんらしいことであった。

最初の訴状で国際問題評論家、前日本平和学会会長のキャリアを生かして「自衛隊のイラク派兵が憲法違反であること、百歩譲ってイラク特措法違反であること、米国のイラク戦争が国際法違反であること」を訴えた北沢さんは、この日その訴状を補完したところを次の三項目をあげて法廷で主張した。1)イラク戦争そのものの変化(ファルージャの悲劇、ナジャフのモスク爆撃、イラク国内で米軍以外の外国人の誘拐・攻撃事件続発、テロのグローバル化、有志連合の動揺)、2)サマワでの自衛隊の活動について、3)新しい国連決議と多国籍軍への参加問題。(http://www.jca.apc.org/~kitazawa/)

北沢さんの訴えが国の代理人にどう届いたか、裁判官にどう受け止められたか、両者の表情から傍聴席の私がそれを判断

するのはむずかしかった。国がどう釈明するのかは今後の裁判に委ねられる。北沢さんの次回の裁判は9月6日(月)と決まった。この間両者間では準備書面が取り交わされる。とりあえずこの日の裁判は淡々と終わった。

参議院選挙でイラク派兵に対する国民の評価はどう打ち出されるのだろうか。首相が首相なら、国民も国民?期待と不安をもって結果を待つ。この結果はイラク派兵を合憲とする憲法改正につながる道を開くといわれている。

一原告になるとー

- ・ひな型を参考に訴状を作成し、裁判所に提出する。
 - ・訴訟手数料は訴状の請求趣旨によって異なる
(例) 自衛隊の派兵差し止め+特別措置法の違憲確認+慰謝料請求
訴訟物の価額: 1,600,000 円 + 10,000 円 = 1,610,000 円
(訴訟手数料: 14,000 円)
 - ・裁判所から呼び出し状が着いたら、被告、裁判所と日時を調整し、出頭し、意見陳述を行う
 - ・文書の証拠(書証)提出や証人(人証)申請を行う
 - ・他の原告の提訴や、傍聴に参加する
- ※訴状作成、提出、意見陳述など弁護士がサポートします

「イラク派兵違憲訴訟の会・東京」 http://comcom.jca.apc.org/iken_tokyo/
東京都新宿区三栄町8 四谷総合法律事務所 内田気付
Fax: 03・3351・9256 Eメール: nora@cityfujisawa.ne.jp

60 years D-Day

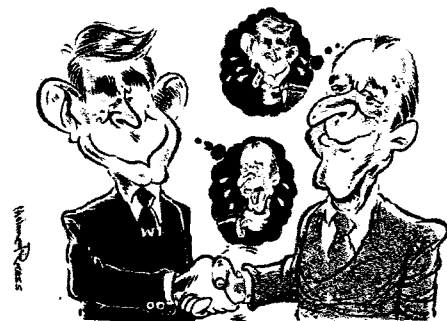
ノルマンディを訪れたブッシュ大統領

Chris BRITT, State Journal-Register

BUSH VISITS NORMANDY



この戦争には嘘はない。ま、あなたにはさっはいり理解できないだろうがね。



シラク大統領と握手、両者の心中は...

オキナワの基地の一ヶ月

2004年6月2日～7月15日

皆川みずゑ 編

● 6月2日

県、金武町、地元区は、キャンプ・ハンセン演習場「レンジ4」に建設をすすめる都市型戦闘訓練施設に対し、建設中止を政府に要請。政府は建設容認の姿勢を変えず。

米魚類・野生生物保護局は、北部訓練場のノグチゲラを絶滅危惧種に指定せず。米環境保護団体「生物多様性センター」は反発、新たな訴訟も準備。

● 6月4日

稲嶺沖縄県知事は、政府の金武町「都市型」施設建設容認姿勢に不満表明。また、あらためて日米地位協定見直しの必要性を強調。

● 6月7日

沖縄駐留海兵隊の一部を北海道陸上自衛隊矢野別演習場に移転させる構想が、日本政府に打診されていることが判明。米国防総省がすすめる世界規模の再編(トランスフォーメーション)の一環。実弾砲撃訓練能力の向上と自衛隊との連繫強化が狙いと見られる。

● 6月6日

米軍嘉手納基地と沖縄周辺空域で、航空自衛隊と米空軍による共同訓練「コーブノース」が始まる。18日まで。

● 6月10日

日本自然保護協会が、普天間飛行場の代替施設建設事業で環境アセスメントのやり直しを要求する意見書を発表。再度、位置選定を含めた手続きをやり直すべきと述べている。これは、環境影響評価法にもとづく、環境保全の見地からの意見書提出のうちの一通。

● 6月20日

沖縄駐留海兵隊の16%、2600人を「キャンプ富士」と「キャンプ座間」に分散させる構想が浮上。

● 6月24日

金武町の都市型戦闘訓練施設建設について、地元の行政委員会は工事関連業者1社に工事からの撤退を要請。受け入れられる。

● 6月25日

米軍嘉手納基地からイラクへ800名、F15戦闘機10機の派遣が来年春に行われることが判明。イラク戦争開始以来二度目となる。

● 6月27日

米軍嘉手納基地内の大型小売り店舗で、過重労働から妊婦を含む女性従業員2名が相次いで仕事中に倒れ、1名が半身まひになっていることが判明。基地従業員へは、日本の労働法規による措置が無視されがち。日米地位協定や労務契約で基地従業員の権利保護が不十分であることが背景。

● 6月28日

金武町で、都市型戦闘訓練施設に反対する住民が工事車両1台を退去させる。米軍基地内の家族世帯、兵舎などから排出される一般廃棄物は1人1日あたりの比較で、県民の約2倍以上になっていることが判明。また、分別もされておらず、再利用も困難と県環境整備課は問題点を指摘。

● 7月2日

金武町の都市型戦闘訓練施設建設で、造成工事が始まる。ゲート前では地元地区の住民らが連日の抗議行動を展開。

● 7月5日

米国のNGO団体「生物多様性センター」のメンバー6名が県庁記者クラブで会見し、普天間飛行場の代替施設を名護市辺野古海域に建設することは周辺生態系に大きな悪影響を与える」と述べ、計画の撤回のために米政府や議会に働きかける考えを表明。辺野古地区ではポーリング調査に反対する住民の座り込みが、4月19日から続いている。

● 7月6日

訪米中の山崎拓氏がワシントン市内で講演し「在沖米軍基地の縮小を実現すべき」と表明。

● 7月8日

グREGソン米太平洋海兵隊司令官は、在沖海兵隊の本土移転が望ましいとの見解を表明。朝鮮半島などの極東有事に即座に対応できる日本駐留の重要性を強調。

● 7月11日

参院選で、全国唯一の野党共闘が実現した糸数慶子氏が当選。政策面では「平和憲法堅持」「新基地建設反対」「イラクの自衛隊撤退」などを強くアピールした。

● 7月12日

金武町長が都市型戦闘訓練施設に反対する基地前抗議行動に参加。建設中止への取組みを強めたいと述べた。

米務省のエバンス・リビア次期次官補（国務省日本部長）は訪米中の伊波洋一宜野湾市長と会談し、普天間基地移設完了までに最短で16年かかることに懸念を表明した。伊波市長は早期返還の実現をもとめたが、これにはリビア氏は日本政府の課題であることを再三強調した。伊波市長は米政府は当事者であり、早期返還の実現に向けた選択肢を日本政府とともに考えてほしい、と述べた。伊波市長は普天間基地の5年以内返還を米政府に訴えるために、11日から21日までアメリカに滞在。

● 7月13日

政府は「沖縄のジュゴンの保護に関する質問主意書」に対する答弁書で、ジュゴンが種の保存法の選定要件に該当することを確認。米軍の演習による影響についてはアメリカにジュゴン保護の配慮を求めていると回答。

訪米中の伊波洋一宜野湾市長は全米最大の平和運動団体「ピース・アクション」と交流。普天間基地返還に向けた市民の行動に支援を要請した。

また、伊波市長は米国防務省のジョン・ヒル日本部長とも会談。この会談でヒル氏は普天間基地が米軍再編の対象であること、代替施設建設が完成まで16年かかることに不快感を示した。また、基地見直しの協議には最終的に日本政府の合意が必要と述べた。

午後、伊波市長の要請を受けた米国議会軍事委員会のニール・アバクロンビー下院議員（民主党、ハワイ選出）は「普天間は閉鎖すべき。軍事委員会で公聴会が開けるよう尽力し、返還期日を明記したレポートを提出するよう、国務省と国防総省に求める」と述べた。

米下院の女性議員エディ・パニース・ジョンソン氏が沖縄の基地問題の現状を問いあわせる照会状を米国国防総省に提出していたことがわかった。東門美津子衆院議員が面会して明らかにした。

● 7月14日

米連邦議会が設立した独立機関「海外基地見直し委員会」のはじめての公開討論会がワシントン市内で開かれた。訪米中の伊波市長は証言書提出に必要な申請書を提出、受理された。証言書とは、同委員会が海外基地の再編計画案をブッシュ大統領に提言するための公聴会で正式に取り上げられ、出席者の証言と同じ扱いになる。伊波市長は、在沖米軍基地の問題解決を促したいと話した。

米合同メソジスト教会のジム・ウインクラー総幹事は、伊波市長と会い、5月の全国総会で「在沖米軍基地の撤退・縮小を求める決議」を賛成多数で採択したと


述べた。同教会は全米第三位の会員数を誇り、市民運動に積極的に取り組んでいる。ブッシュ、チェイニー氏ら議員多数も会員で政治的影響力は大きい。ウインクラ氏は伊波市長に支援を約束、平和運動担当者は広報誌に普天間問題をとりあげると話した。

● 7月15日

沖縄施設・区特別行動委員会 (SACO) 最終報告で定めた普天間飛行場の返還計画の見直しを、アメリカが検討していることが明らかになった。在米日本大使館の山本忠通公使は、会談した伊波市長に、15、16日に開かれる日米外務・防衛当局者の審議官級協議で普天間飛行場の返還問題がとりあげられると明言した。また、この協議では、在沖海兵隊の移転先に北海道の矢野別演習場を含めないこともわかった。

(この月表の作成にあたって、青木雅彦さんのメール情報 nomorewar を参照しました。)


From Daily Updating POLITICAL CARTOONS



アメリカではほぼ時期を同じくして二人の著名な人物が亡くなった。ロナルド・レーガン元大統領とソウル・ミュージックの神様レイ・チャールズだ。大勢のアメリカ人が二人の死を悼んだ。

元大統領の葬儀は盛大に営まれたが、その一方で、「アメリカの大義」のためにイラクで戦死したアメリカ人兵士の葬儀が身内だけでひっそりと営まれる現実が、今のアメリカにはある。

レーガン人気にあやかろうと、レーガン元大統領の霊柩車のバンパーに「2004年の大統領選挙はブッシュを」とステッカーを貼る人物は一体誰か。再選のためには手段を選ばず、か。



IN HONOR OF RONALD REAGAN.

IN HONOR OF RAY CHARLES.

アメリカ政府は半旗を掲げ、「ソ連崩壊の立役者」として元大統領の死に最大級の弔意を表した。が、庶民の素朴な気持ちとしては、偉大なアーティストの死を心底悼む、と言いたいですよね。

おまえの体 花となり
チェ・ビョンス

Your Body becomes a Flower
 Choi, Byung-Soo

たった一つの絶叫で しみ出す苦痛に
 血を流して眠り 血を流して目覚め
 あの空へ 旅立っていったのかい

In your suffering
 with your shrill scream
 You slept while you bled and
 You bled as you awoke
 You flew away to the sky

こどもらよ 許してくれ!
 お願いだ こどもらよ!

残忍な現実、貪欲な現実を
 殺りくを説教し
 欲しいままにする者らの
 銃と刃を

Children, I appeal to you
 Children, please forgive
 The world of corruption and greed
 The guns and swords of those
 who preach and commit slaughter

おまえの体 花となり
 何千年も 何万年も
 おまえの魂 花となり
 おまえの魂 花となり

Your body becomes a flower
 for near eternity
 Your soul is a flower
 Your soul is a flower

(原文は朝鮮語、翻訳：ファン・ヨンチ)



